



馬耳東風

「わお！大吉だ。」若い女性の声に思わず振り向いた。籤を引いて神意を問う運勢を占う「御神籤」は、昔から神仏参拝に付き物で隠れた人気を持っている。「初詣」は、老若善男善女の晴れやかな顔々が集まり、新年を寿ぐ熱気に包まれ、そのにぎやかさを誇りとする。また、「お宮参り」や「七五三」は、もとより晴れがましく家族や地域にとって実にうれしい神仏への参拝である。日本人の精神性が滲み出ている。お賽銭さいせんを入れ祈願する参拝の三点セットと言えば「御札・お守り」「絵馬」「御神籤」ということになるだろうか。絵馬は、特に受験シーズンに合格祈願する学問の神、菅原道真公を祀る天神様に象徴される。絵馬に思いを記して奉納し、お守りを身に付けて受験に臨む。ほほ笑ましく真剣な通過点で、日本の風土が作り出した風物詩でもある。絵馬からは縁結びから安産や病気の快復まで、人生の節目が読み取れる。御札は神棚に祀り、お守りは身に付けて神仏の加護を祈願する。馬頭観音や牛頭天王ごずてんのうの御札と絵馬は畜舎でよく見かけたものだ。東京都西多摩に鎮座するオイヌサマ（日本武尊の東征に関わる神狼）を祀る神社が、最近人気である。犬を連れてケーブルカーで参拝し、専用の拝殿で祈願する。授与された「犬用お守り」を付けてお散歩だ。ここにも熱い愛犬家の思いがある。

御神籤は境内の木の子やみくじ掛に結び、まさに神仏との縁を結ぶ所作である。籤箱を振って、出てきた竹の

棒の番号を読み取り、籤棚から番号札を取り運勢を占う。古文調で書かれていて説明が無いと吉凶判断に悩むものまである。良い籤に当たれば誰でもうれしい。濃縮された人生訓が読み取れる。神仏の前で自らの手で選び出した運勢であり、吉凶よりも何が書かれているかが興味深い。それにしても「ヤマガラヤマガラの御神籤引きの芸」は面白い。動物行動学の小山幸子博士は、ユニークな文化史的アプローチでヤマガラの行動を研究した。ヤマガラ芸は江戸時代から庶民の知恵の産物であったが、今や姿を消してしまった。昭和57年の秋、獣医師会の旅行で豊川稲荷へ参拝の折、参道で見かけた「ヤマガラ使い」の見事な芸を思い出す。「ヤマガラ使いから受け取った1円玉をくわえて賽銭箱に入れ、鈴を鳴らしくちばしで祠の扉を開け、中から御神籤をくわえて止まり木へ戻り落とす」という一連の高度な動作に、しばし足をとどめ見入ったが、今や幻の人気の動物芸である。かつて日光東照宮境内でも見られ、浅草花やしきでも興行され人気を博したという。和鳥類の飼育が禁止されて久しい。動物愛護や生態系の観点からは当然のことながら、文化史的動物観からするといささか淋しい思いがする。御神籤といえその方法も様変わりしてきた。文明社会にあって生き続け、今や自動頒布機があり、ハイテクの獅子舞ロボットが舞いながら籤を取り出す時代である。伝承される民俗文化史の一端に触れ、自分の手で籤を引き自分の目で読み運勢を占う、お正月の幸せな気分の中に、一興いかにと挑戦してみませんか。（柏）